

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2114 号

Association between C-reactive protein level at hospital admission and long-term mortality in patients with acute decompensated heart failure

(急性心不全患者における入院時 CRP 値と長期予後の関連)

松本 紘毅 (まつもと ひろき)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、急性心不全患者の入院時 CRP 値と長期予後の関連について明らかにした論文である。

入院時の血中 C 反応性蛋白 (C-reactive protein: CRP) 値は急性冠症候群をはじめとした心血管疾患の予後と関連すると言われている一方で、心不全患者における CRP と予後の関連に関する報告は少ない。本研究では、2007 年から 2011 年まで順天堂医院冠集中治療室に入院した急性心不全患者のうち、急性冠症候群や悪性疾患を除外した 527 例を対象に後ろ向きに検討が行われた。入院時 CRP 値の 4 分位数に基づき患者を 4 群に分類し多変量解析を行った結果、入院時 CRP が最も低値の群 (Q1: CRP < 0.3 mg/dL) と比較して、CRP 高値の群 (Q2: $0.3 \leq \text{CRP} < 1.0 \text{ mg/dL}$; Q3: $1.0 \leq \text{CRP} < 3.9$; Q4: $\text{CRP} \geq 3.9$) では、CRP 値 4 分位が増加するにつれ有意にハザード比が増加していた (P for trend, 0.034)。また自然対数変換した CRP 値を連続変数として解析すると、有意に予後と関連していた (HR 1.16, p=0.030)。これらの結果から、急性心不全患者における入院時 CRP 値は有意な予後予測因子であるといえる。炎症は心不全の発症・進展において重要な役割を担っていると考えられるが、炎症のバイオマーカーと長期予後の関連についての報告は少なく、この点において本研究は新規性があると考えられる。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。